



▲豊平ウインター歩っ歩の会 (2/13)
冬場の健康づくり。
スノーシューで雪中ウオーキング。

▼創造学園卒業式 (3/13)
卒業の喜びを胸に、みんなで合唱。
おめでとうございます。



▼イグルー※作り体験 (2/14)
みんなで力を合わせて、
立派なイグルーを作ります。
※北極地方に住むイヌイットの人々が作る、雪でできた簡易住居



▲料理教室「母国料理で食文化の交流を」(3/3)
留学生と地域の方が楽しく料理をしました。



▲エンジョイ・マタニティ
クッキング (2/26)
新人お母さん、生まれてくる命のために、がんばります!

▼豊平区少年消防クラブ卒団式 (3/7)
これからも、地域のために
火の用心!!



第46回 田植え祭り「さなぶり」の巻

～人と人をつなぐ祭り～

平岸五条七丁目にある平園公園の一角に建つ三基の碑。この碑の前では、毎年七月五日に「さなぶり」の日として、慰霊祭が行われています。

「さなぶり」とは田植えの終了を祝う行事で、平岸街道から美園までの一帯が東裏地区と呼ばれ、辺りに水田が広がっていました。この日だけは皆一斉に仕事を休んで、餅をついたり、芝居を楽しんだり、過酷な農作業の労をねぎらいました。

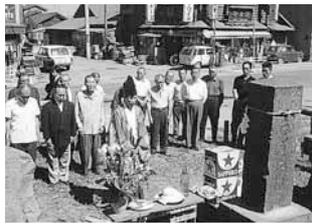
三基の碑はそれぞれ、この地域に馴染み深いもので、最初に建てられたのは「沼田砲兵軍曹忠霊碑」です。これは、東裏地区で入植後初めて生まれた沼田安太郎の慰霊碑で、同地区から日露戦争に召集された第一号であり、戦死者の第一号にもなっていました。地域の人々はこの死を悼み、寄付を集めて碑を建てました。田植え祭り「さなぶり」が始まったのは、この碑の除幕式が行われた明治四十年七月五日のことです。

次に大正四年に「馬頭観世音碑」が建てられました。当時、馬は農作業の大きな動力源で、堆肥作りや土地改良に無くしてはならないものでした。家族の一

員でもある馬の無病息災を祈願し、さらには亡くなった愛馬の霊を慰める碑です。

昭和十一年の「さなぶり」の日に建てられたのが「故重延卯平翁之碑」です。平岸水田の開祖といわれ、水稲の栽培技術の改良や農機具開発など、この地域の稲作の発展に尽くした人です。この地域の水田は、昭和三十年代の都市化の波で、住宅地へと姿を変えていきます。碑は、当初、現在の平岸四条六丁目の水田の中にありましたが、昭和五十三年、現在の公園に移転します。このときに第二次世界大戦で戦死した、東裏出身の陸軍兵長佐藤栄吉と陸軍軍曹松本喜市の二名も「沼田砲兵軍曹忠霊碑」に合祀されました。

これらの碑は、現在も地域の人々が中心となり、郷土の誇りとして守り続けています。そして、「さなぶり」を通じて、人と人のつながりは、いつまでも途絶えることなく大切にされていくでしょう。



昭和45年に行われた「さなぶり」の様子